

報道関係者各位

ご案内

「どうする？教えて！病院選びのポイント」アンケートを実施

「患者が転院する理由は？」560名の声を集めました

NPO 法人 Fine (Fertility Information Network=ファイン) <http://j-fine.jp/>

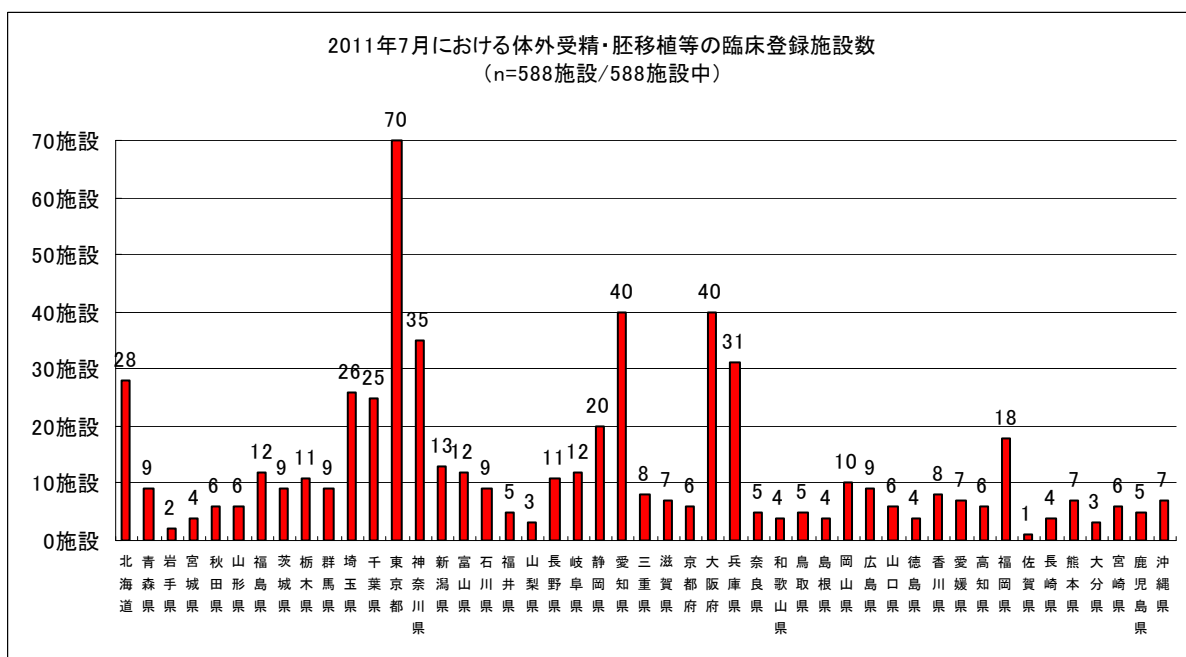
不妊症患者をはじめ不妊で悩む人をサポートする、不妊体験者によるセルフサポートグループ「NPO 法人 Fine (ファイン)」は、このたび「どうする？教えて！病院選びのポイント」アンケートを実施、不妊治療経験者 560 人の生の声を集めました。

< 調査について >

◆調査目的◆

< 病院選びに迷う患者 >

カップルの 10 組に 1 組が不妊といわれる日本。体外受精ができる施設も増えており、2009 年では全国で 625 施設と、世界一多いといわれています。多くの施設があることは、患者にとって恵まれた環境かもしれませんが。しかし実際には、少ないところでは「県内に 1 施設のみ」など、その分布には大きな偏りがあります。事実「必要な治療ができる施設が近くにない」と新幹線や飛行機を使用して遠距離通院をする患者も少なくありません。いっぽう施設が集中している首都圏では、「選択肢が多いのはありがたいけれど、どこを選んだらいいのか迷う」という声も多く聞かれます。



※日本産科婦人科学会『日産婦誌 63 巻 9 号』「倫理委員会登録・調査小委員会報告(体外受精・胚移植等の臨床実施成績および登録施設名)」より

< 転院する人とならない人の違いは？ >

不妊治療は高額である上に、受けても妊娠するとは限りません。この経済的・精神的負担は、患者にとって大きなものです。また治療だけでなく各種検査にも費用や期間を要します。それらが無駄にしないためにも、「できれば転院はしたくない」と患者は思っています。しかし実際には転院を 1 度ならず繰り返すことは珍しくありません。けれども逆に、妊娠する・しないに関わらず、1 度も転院せず治療を終える人もいます。しかもその理由が「納得したから」というケースも少なくないのです。

この違いは、いったい何なのでしょう？

<治療環境のさらなる向上を願って>

このアンケートは、そのような「病院選び」の重要点を明らかにし、課題解決のヒントを得ることを目的に実施しました。また患者の「納得・満足感」に焦点を当て、通院先に「満足している人／していない人」それぞれの意見を引き出すことにより、「患者が転院するきっかけは何か」「どのようにしたら患者は納得して治療を終えられるのか」等を模索、一人でも多くの患者が「納得した治療」が受けられるよう、治療環境の向上を願って実施したものであります。

◆調査方法◆

NPO 法人 Fine のウェブサイトにてアンケートのフォーマットを設置、Fine の会員をはじめ、不妊体験者に広く告知し、560 人の有効回答を得ました。

◆調査期間◆

2011 年 10 月 6 日～2012 年 7 月 5 日

◆調査結果(抜粋)◆

不妊治療の際、病院の情報収集方法や重視する点、通院先の満足度とその理由、改善してほしい点、また転院の理由や、転院の回数など「病院選び」に関する設問を 17 問に、調査協力者のプロフィール等を加え、合計 25 問の設問による調査を実施。設問は選択式と自由記入式を併用しました。設問の一部と回答、および解説をご紹介します。

* 設問全文はこちらをご覧ください。 <http://j-fine.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi?id=byouin>

* 文中のパーセンテージは四捨五入したものです。詳細なパーセンテージの数字はグラフの数字でご確認ください。

<調査結果>

■回答者のプロフィールについて

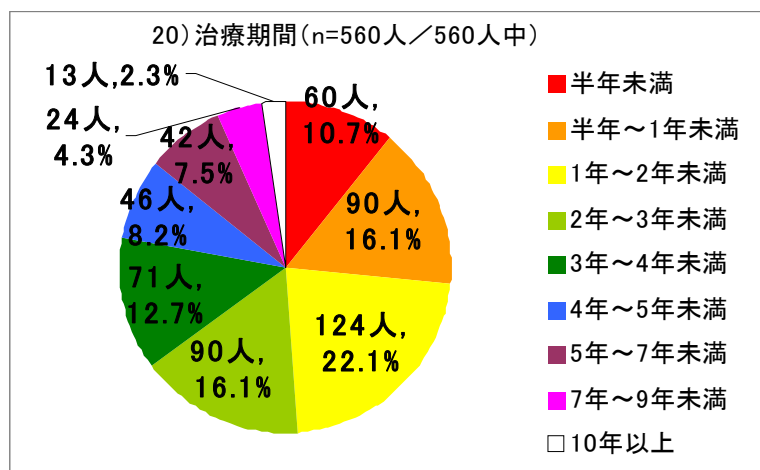
30代が約7割、4割弱が顕微授精の経験あり

Q18・19：年齢・性別は？

「30歳以下」が 67 人(12%)、「31～35歳以下」が 172 人(31%)、「36～40歳以下」が 208 人(37%)、「41～45歳以下」が 92 人(16%)、「46歳以上」が 21 人(4%)でした。30代が 68%とその3分の1を占めており、次いで多かったのが 41～45歳以下でした。性別は女性が 554 人で 99%。男性は 6 人でわずか 1%にとどまりました。

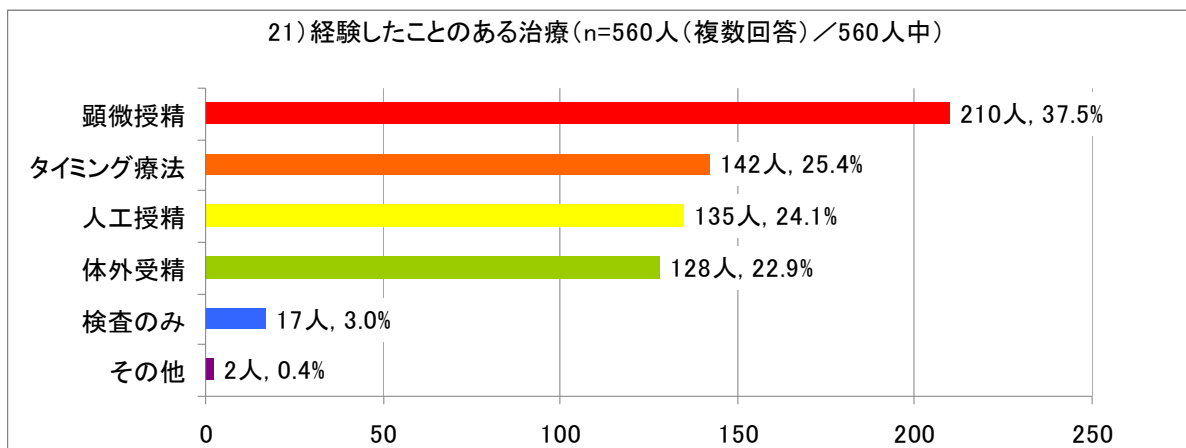
Q20：治療期間は？

治療期間は各年数にほぼ同数程度の分布となりました。その中で最も多かったのは「1年～2年未満」が 124 人で 22%、「半年～1年未満」と「2年～3年」が同数で 90 人(16%)、次に多かったのは「3年～4年未満」の 71 人(13%)でした。「2年未満」と答えた人が合計で 274 人(49%)と、約半数でした。



Q21: 経験したことのある治療は？

経験したことのある治療は下記の通りで「顕微授精」は 210 人(38%)と、4 割弱の人が経験していました

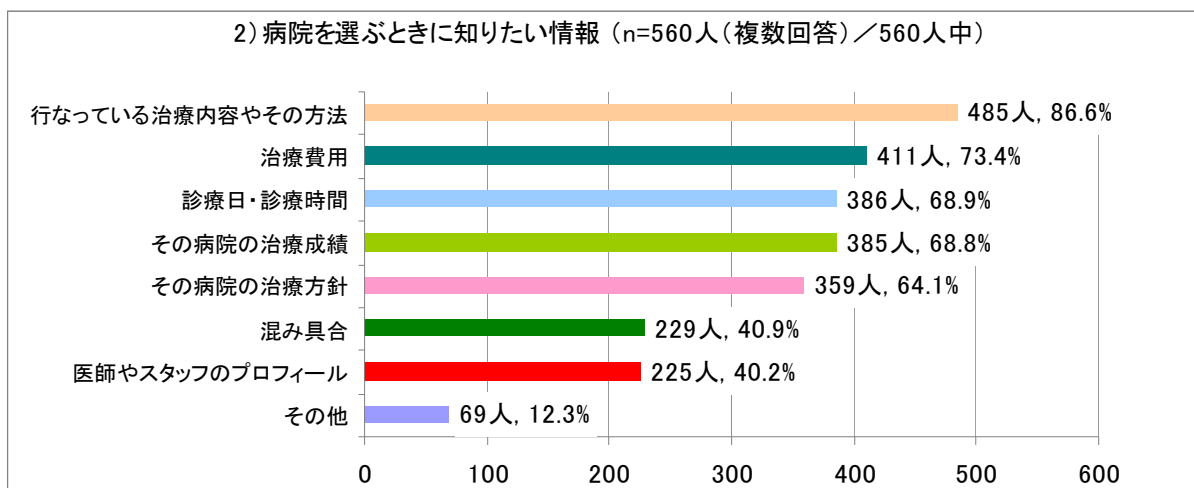


■病院の情報収集について

知りたい情報は「治療内容」、選択の決め手は「通いやすさ」がトップ

Q2: 病院を選ぶにあたり、どのような情報が知りたい？(複数回答可)

患者は病院を選ぶ際に、どのような情報を必要としているのでしょうか？ 最も多かったのは「行なっている治療やその内容」の 485 人(87%)で、「どんな治療が受けられるのか」を知りたい人が突出して多いことがわかります。2 番目が「治療費用」の 411 人(73%)、3 番目「診療日・診療時間」386 人(69%)と 4 番目の「その病院の治療成績」385 人(69%)はほぼ同数で、約 7 割が知りたいと思っています。



Q1: その知りたい情報は、どうやって収集した？(複数回答可)

では、その「知りたい情報」を、患者はどうやって収集するのでしょうか？

「不妊治療情報や病院情報はどのように探した？」の答えで一番多かったのは「その病院のウェブサイト」で 283 人(51%)、次は「不妊情報に関するウェブサイト」で 270 人(48%)でした。それぞれ、ほぼ 2 人にひとりがそれらのウェブサイトから情報を得ていることがわかります。コメント欄によると、「不妊情報に関するウェブサイト」とは政府や学会等ではなく、企業や団体等が運営しているウェブサイトの名前が多くみられました。3 番目に多かったのが「治療をしている友人からの口コミ」で 157 人(28%)、4 番目が「家族や周囲からの情報」で 107 人(19%)であったことから、ま

ずは手っ取り早くウェブサイトから情報を得るけれども、それだけではなく「実際にそこの病院を知っている人」や「信頼できる人」からの生の声や情報を得ようとしていることがわかります。

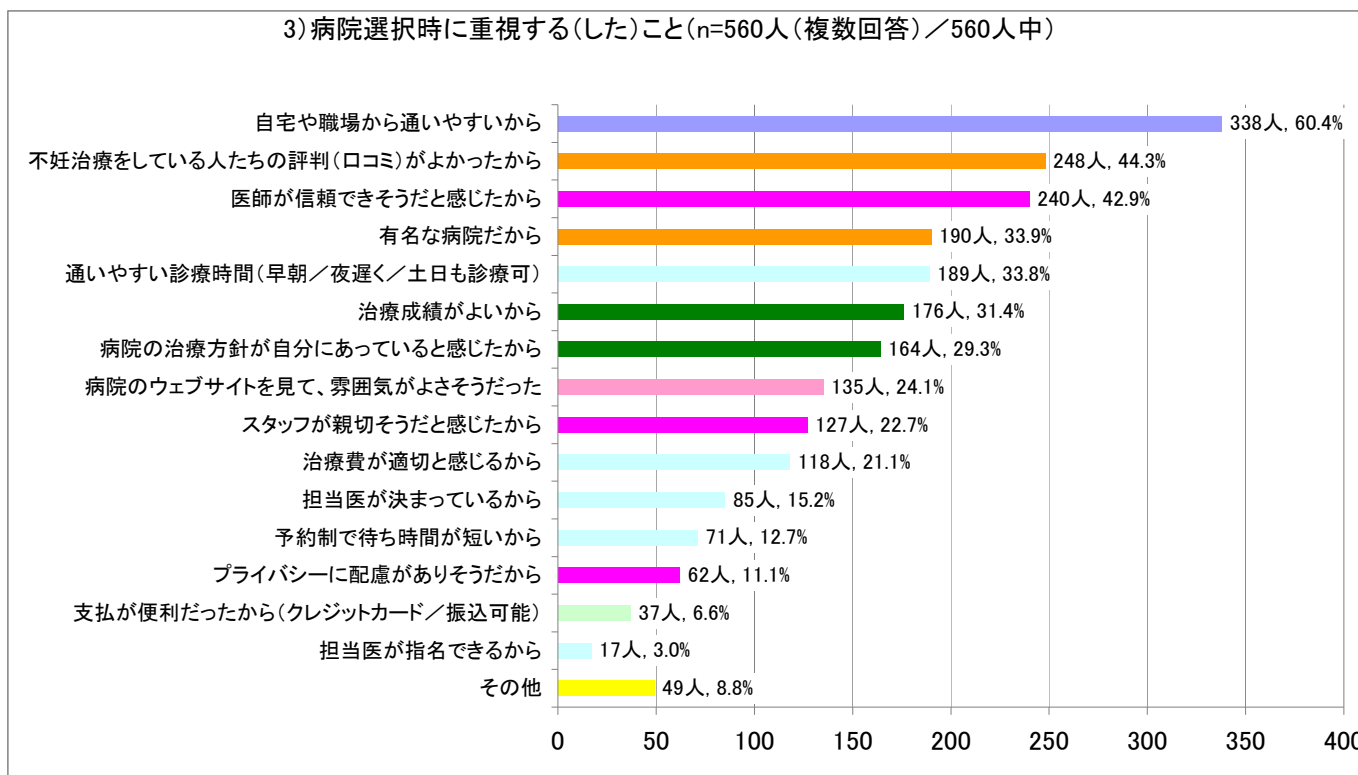
Q3: 病院を選ぶ際、重視したことは？(複数回答可)

そうして集めた情報の中から、患者は何を重視して病院を選ぶのでしょうか。

ここから表示する棒グラフの色は、下記の6つに分類しました。その色分けは下記の通りで、「ソフト」に関することは濃淡のピンク、「ハード」は濃淡のブルー、「治療に関すること」は緑で、「評判」はオレンジで表しています。この6色のうち、「人」の力のみで改善の可能性がある(改善しやすい)ものは、濃淡の両ピンクと、薄いブルー(ハード面の中の「システム」)かと思います。

分類	ソフト(対応など)	ハード(院内設備・立地など)	評判・口コミなど
	ソフト(雰囲気など)	ハード(システム・費用)	治療に関すること

「病院を選ぶ際に重視したことは何ですか？」の質問に一番多かった答えは「自宅や職場から通いやすいから」で338人(60%)。次いで多かったのが「不妊治療をしている人たちの評判(口コミ)がよかったから」で248人(44%)。3番目は「医師が信頼できそうだと感じたから」で240人(43%)でした。トップ5までを見ると、「通いやすさ」「評判のよさ」などを重視していることがわかります。



■病院の満足度について

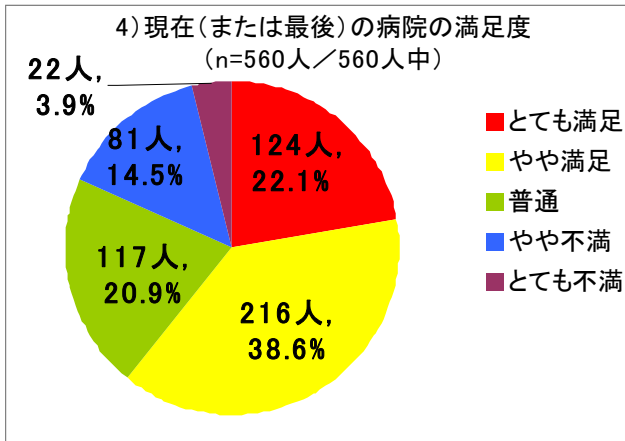
「満足」と答えた患者は6割

Q4: 現在通院している病院に満足している？

通院している病院に、患者はどれくらい満足しているのでしょうか。

「現在通っている(現在通っていない人は最後の)病院に満足していますか？」の問いには「とても満足」が124人

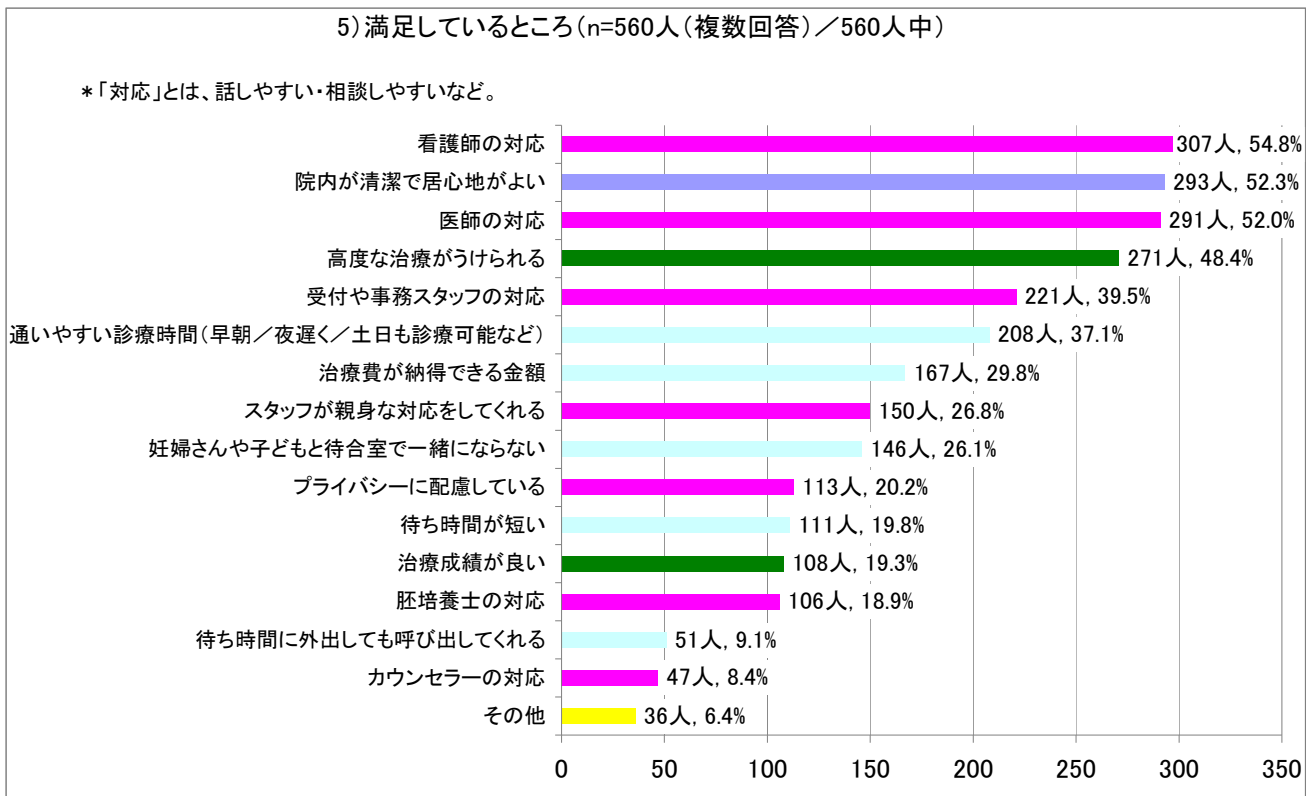
(22%)、「やや満足」の 216 人(39%)を合わせると、340 人(61%)と 6 割が満足しています。「やや不満」「とても不満」と答えた人は合わせて 103 人(18%)で、8 割以上の患者は不満がないという結果が出ました。



Q5: どんどころに満足? (複数回答可)

次に「どんどころに満足しているか?」を訊きました。最も多かった答えは「看護師の対応」で 307 人(55%)。コメントでは「初めての検査で不安だったとき、看護師さんがずっと励ましてくれた。涙が出るほどうれしかった」「移植後、戻した卵の写真を見ていたら『とってもきれい。ダイヤモンドみたいよね』と言ってくれた。グレードがよくなかったの心配だったけれど、不安な気持ちがなくなり、とても楽になった」等がありました。次いで多かったのは「院内が清潔で居心地がよい」で 293 人(52%)、3 番目は「医師の対応」で 291 人(52%)でした。

グラフの色を見てわかるように、濃いピンク＝「ソフト(対応)」と薄いブルー＝「ハード(システム・費用)」が多く、「ひと」あるいは「しくみ」に因るものが多いことがわかります。

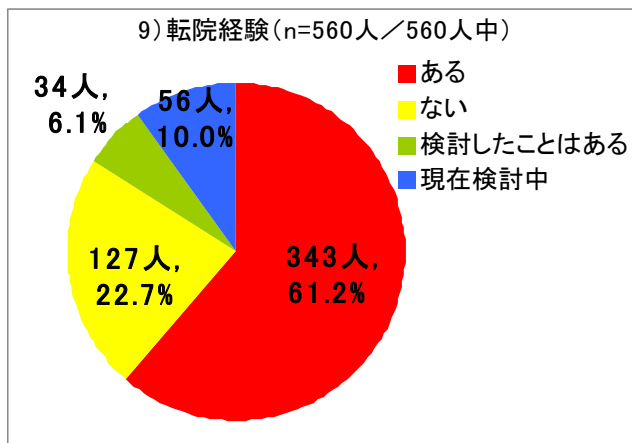


■転院について

患者の「6割が満足」。実は「転院したから、今は満足」だった！

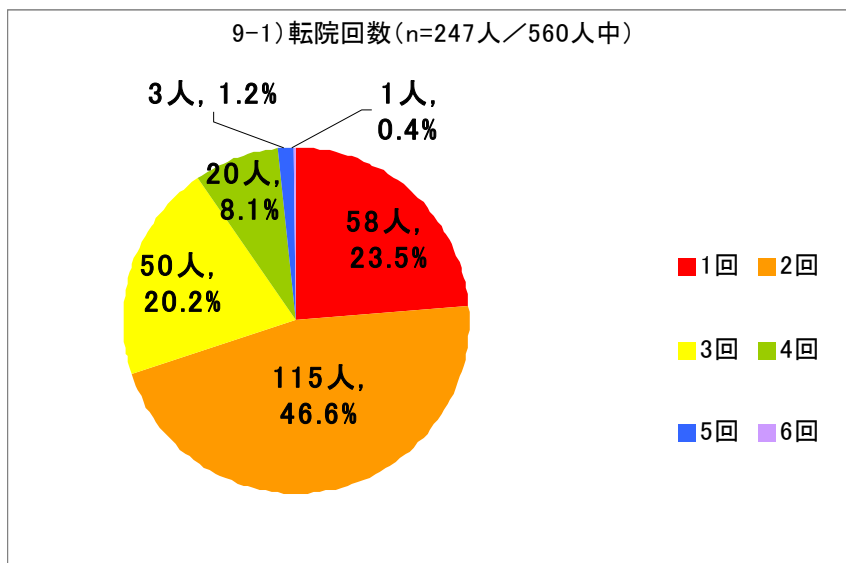
Q4、Q5の結果からは、患者の8割は「通院先に不満がなく」、「満足している部分が多い」ように見えます。しかし、次のQ9で「転院経験」を訊いたところ、「ある」が343人(61%)でした。つまり、6割の人は「転院したから、今の病院には満足」と感じているということです。転院経験のない人でも「検討したことがある」「現在検討中」を合わせると90人(16%)の人が転院を考慮したことになり、合わせると全体では433人(77%)の人が「転院した(あるいはしたい)」ということになります。

Q9: これまでに転院したことはある？



Q9-1: 何回、転院した？

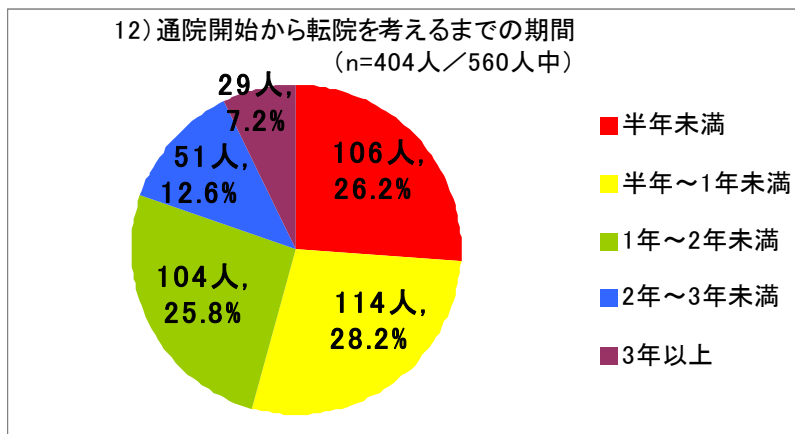
では「満足」あるいは「不満はない(ふつう)」と思えるまでに、患者はいったい何回ぐらい転院したのでしょうか。結果はグラフの通りで、一番多かったのが「2回」の115人(47%)、現在通っている病院は3軒目ということになります。2番目に多かったのは「1回」で58人(24%)、3番目は3回で50人(20%)でした。3回以上転院を繰り返している人は、合わせると74人(30%)。一番多かったのは6回という人もいました。



Q12: 通ってからどれぐらいで転院を考えた？

上述のとおり、77%の患者が転院をした、あるいは望んでいるわけですが、では患者は、通い始めてからいったいどれぐらいで「転院したい」と考え始めるのでしょうか。「どれぐらいで転院を考えた？」という問いに対する、転院経験

(検討中含む)のある404人の回答は、「半年～1年未満」が114人(28%)で一番多く、次に多かったのは「半年以内」で106人(26%)でした。合わせると半数以上の220人(54%)の患者が「通院開始から1年以内」に転院を考えるとになります。3番目に多かった「1年～2年未満」の104人(26%)を合わせると、約80%の患者が「2年以内」に転院を考慮することがわかります。

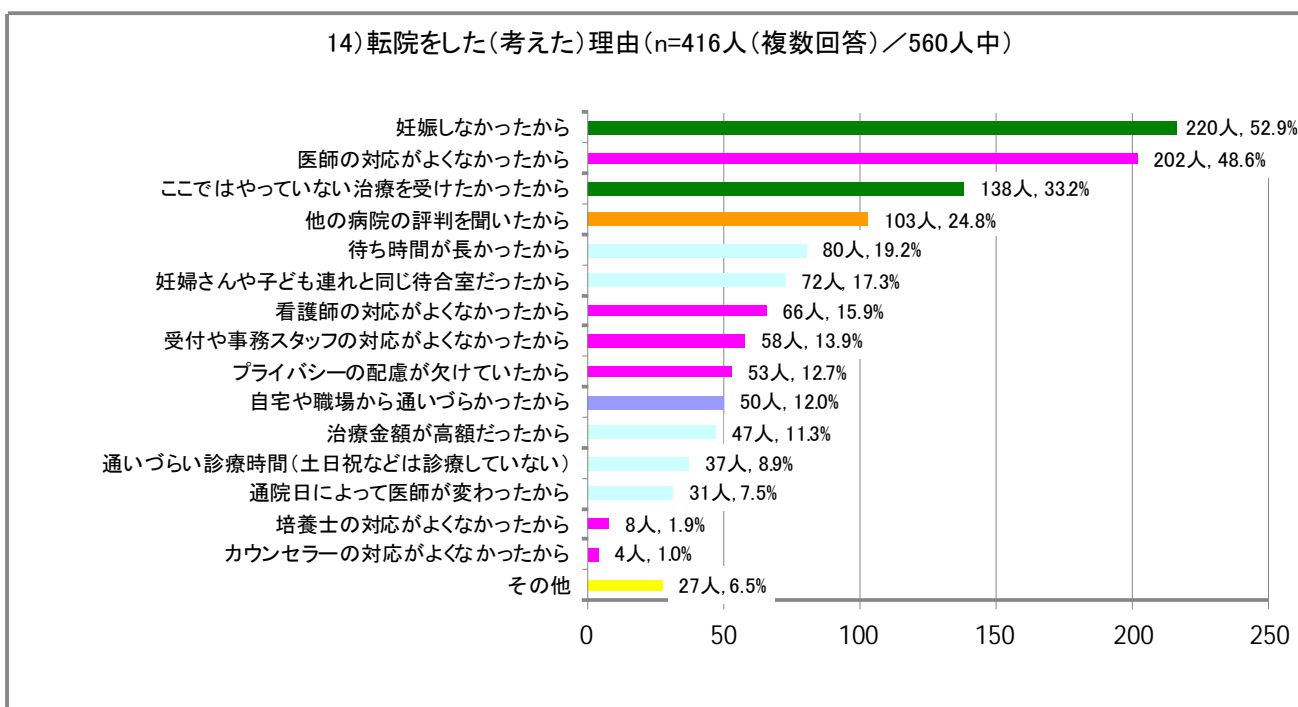


Q14: ずばり、転院した理由は？

では、なぜ患者は、せっかく情報収集をして選択し、通い始めた病院を、「1年以内」という短い期間で転院してしまうのでしょうか。はたして「ここでは妊娠しないから」だけなのでしょうか。

「転院した理由は？」に対する回答は下記の通りです。

「妊娠しなかったから」をあげた人は確かに一番多いのですが、複数回答であるにもかかわらず、これを選んだのは53%と半分強にとどまりました。言い換えると **2人に1人は、転院した理由として「妊娠しなかったから」を選ばなかった**ということになります。2番目に多かったのは「医師の対応がよくなかったから」で49%、次いで「ここではやってない治療を受けたかったから」が33%で、約3人に1人、「他の病院の評判を聞いたから」は25%で、4人に1人が、それぞれ理由の一つとしてあげています。次は「待ち時間が長かったから」「妊婦さんや子ども連れと同じ待合室だったから」と続きます。回答のトップ10のうちに「対応」が4つ入っており、グラフ全体をみても、濃いピンク(=対応)と薄いブルー(システム・費用)が多いことがわかります。

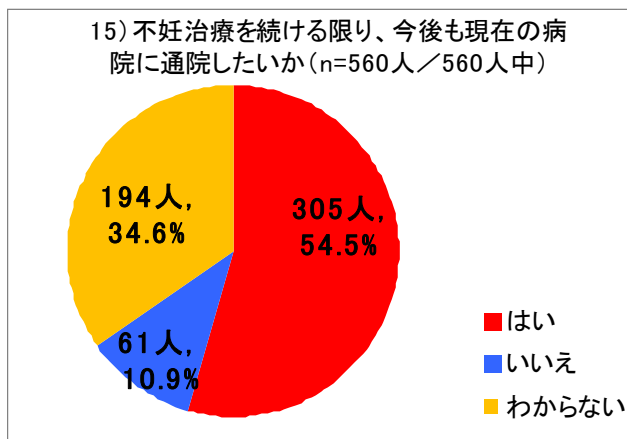


■今後の通院について

「今後もここに通う」は 55%

Q15: 不妊治療を続ける限り、今の病院に通い続ける？

「今後も現在の病院に通いたいですか？」という問いに「はい」と答えた人は 305 人 (55%)、「いいえ」が 61 人 (11%) 「わからない」が 194 人 (35%) でした。これを Q4 の「満足度」に照らし合わせると、「満足」「やや満足」と答えた 340 人 (61%) のうち 35 人は「わからない」もしくは「いいえ」と答えたことになり、「満足」と答えながらも、そのうち 10 人に 1 人は転院の意思を持っていることがわかります。

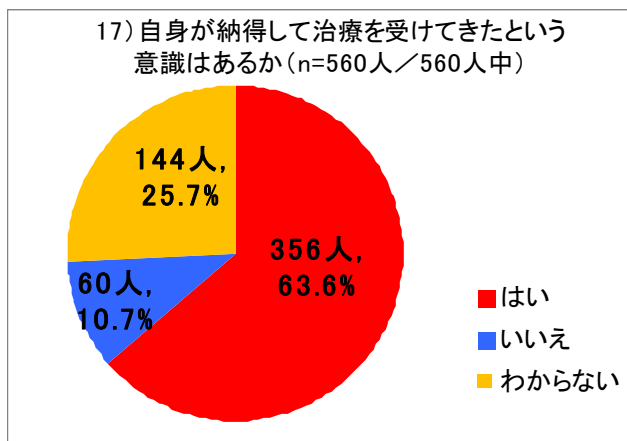


■これまで治療を受けてきて...

「治療に納得している」は 6割

Q17: 納得して治療を受けている？

冒頭の「目的」でも述べた通り、患者が「治療に納得しているか？」は重要なことです。「はい」と答えた人が 356 人 (64%) で、約 3 分の 2 の患者が、自分でも納得して治療を受けていることがわかります。しかしながら残りの約 3 分の 1 は、「納得感がない治療を受けている(受けた)」こととなります。コメントを見るとそのほとんどが、理解、説明、知識、コミュニケーションの不足によるものでした。



■アンケートの「コメント」より

今回のアンケートも、フリーコメント欄には、非常に多くの意見が寄せられました。一部を抜粋します。

●これまでで嬉しかったこと

- ・ようやく授かった命が稽留流産となってしまう手術を受けるときに看護師さんやスタッフがあつたかい言葉で気持ちに寄り添ってくれた。
- ・一週間に何回も通って疲れ気味だったところ、担当医が「何度も大変でしょうけど頑張りましょうね」と一言。心が軽くなった。
- ・院長の奥様が看護師でカウンセリングのように話を聞いてくれて嬉しかった。
- ・泣いてしまったら「落ち着くまで使ってもらって結構ですよ」とお部屋を貸してくれた。とてもありがたかった。
- ・診察が終わると不妊症看護認定看護師さんが寄ってきてくれて、時間がある時にはゆっくり話ができる。
- ・医師に「一緒に頑張っていきましょう」と言ってもらったこと。カウンセラーに「今までやってきたことは無駄ではない」と言ってもらったこと。

●これまで困った、悲しいと思ったこと

- ・内診の時に隣の治療の様子が聴こえてきたり、超音波の画像が見えたりして、プライバシーに全く配慮がない。
- ・前の病院では「わからないことはネットで調べて」と言われ、今の病院では「ネットは絶対見ないでほしい。間違った情報が多いから」と言われた。
- ・着床しなかった時も、受精しなかった時も、流産した時も、常に原因は「年齢が」「年齢が」と何度も言われた。30代から5年間も通っていたのに…早く転院しなかったことを後悔している。
- ・受付で予約の際に仕事の調整で困っていたら「皆さん普通仕事休んで通ってますよ」と言われた。

●不妊や不妊治療について、思っていること

- ・男性の意識がもっと高まればいい。偏見がなくなればいいと思う。
- ・44歳で治療を始め現在45歳。まだ卵子が取れるので、本当に諦めていいのか、今後諦められるか不安。
- ・テレビや雑誌で高齢出産は当たり前のように報道されていたので腰を上げるタイミングが遅すぎた。まさかこんなできないと思わなかった。
- ・どういう結果になっても後悔はしたくないので、やれるだけのことはやりたい。
- ・とにかく治療費が高い。もっと助成金が増えてほしい。
- ・患者側も主体的に知識を身につけて、なるべく自分の意見を持って治療に臨むべき。そうでないと無駄に過ごす時間が長くなる。
- ・治療成績や治療方針を公開してもらいたい。
- ・学生時代に不妊について学べる機会があればよかった。妊娠がいかに難しいか知らなかった。
- ・結婚したらすぐに子どもはできると思っていたので、できない自分がすごく嫌になる。

■アンケート結果を踏まえて

●調査のきっかけは「転院理由」の意識の差

今回の調査のきっかけは、ある医療者の方の「患者さんが転院するのは妊娠しない以外に、何か理由があるんでしょうか」との問いかけでした。そこで転院経験のあるスタッフ数名に訊いたところ、「もちろんそれもあるけど、もっと大事なこともある」、「妊娠しないからって、すぐに転院するわけじゃない」と、意見が一致しました。ここにも患者と医療者の意識のギャップを再認識したため、広く現状を明らかにするべく、調査を実施しました。

●「納得のいく治療」を大切に

「不妊患者が病院に求めるものは何か？」

私たちは体験上、妊娠する・しないにかかわらず、「納得のいく治療を受けられたかどうか」が大切であると感じてい

ます。妊娠・出産は人生における大きな分岐点です。その為に費用や時間、気持ちをつぎ込んでも「出産できない場合」がある。それでも「治療したことを後悔しない、納得できる」と言えるかかどうか？それはカップルのその後の人生に大きな影響を及ぼします。事実、妊娠・出産の有無にかかわらず、治療をきっかけとして、残念ながら離婚してしまうカップルも少なくありません。

●情報の整理と選択眼が不可欠

このアンケートから見えたもののひとつに、情報整理の必要性があります。現代社会において「インターネットの情報」は、もともと手軽でスピーディーな分、便利だといえるでしょう。しかしその分、受け手の取捨選択が困難になってきています。実際、アンケートのコメントに「たくさんある情報や掲示板、個人のブログに翻弄されないようにするのが難しいと思う」「みんな正しい情報とメンタルケアを求めていると思います」「病院選びは難しい。ネットの口コミも当てにならない」などの戸惑いの声も多くみられました。

●価値観の再確認と情報共有が必要

情報の選択は言うまでもなく自己責任となるわけですが、アンケートからは、患者自身が「何を大切にしたいか＝価値観」をよく理解していなかったために転院を繰り返したケースも見受けられました。「転院の際、病院選びの重視する点が変わった」と回答した人のコメントでは「初めは評判を重視したが、転院していくうちに医師やスタッフを信頼でき、自分が納得し安心して治療が受けられるところがいいと思うようになった」「通院しやすいかどうかではなく、治療方針が自分に合っているかが大事とわかった」などがありました。これらは意思決定のための、事前の情報共有の重要性を示しているのではないのでしょうか。

患者も医療者も治療に対して真剣であり、それぞれ日々努力を重ねています。その努力がうまくかみ合うかどうか「納得のいく治療」のカギであると考えます。この調査結果が、少しでもそのマッチングの材料となり、日本における不妊治療の環境向上の一助となることを願ってやみません。

この調査結果を、ぜひ貴媒体でとりあげていただき、広く社会への周知を図っていただけますよう、お願い申し上げます。

上記の他にも多数の設問により、たいへん興味深い結果が出ております。

結果は、近く Fine のウェブサイトでも公開する予定です。この調査結果に関して、ご質問やご意見などございましたら、ぜひお気軽に下記までお寄せください。

今回のアンケートの全設問は下記 URL をご参照ください。

<http://j-fine.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi?id=byouin>

ご参考：日本産科婦人科学会「倫理委員会登録・調査小委員会報告（体外受精・胚移植等の臨床実施成績および登録施設名）」

http://www.jsog.or.jp/activity/pdf/Rinri_report6309.pdf

NPO 法人 Fine これからの活動予定（2012年8月27日現在）

『Fine 祭り 2012 仲間と話そう！不妊』を開催予定（2012年9月～11月）

9/1 京都・9/2 大阪では、iCSI（International Consumer Support for Infertility=国際不妊患者団体連合）とのコラボで国際学会を開催！10/7 札幌・10/21 福岡・11/3 東京はおしゃべり会を開催予定。

参考ウェブサイト <http://j-fine.jp/matsuri/2012/matsuri.html>

【お問い合わせ先】

NPO 法人 Fine（ファイン） 担当 / 松本

〒135-0016 東京都江東区東陽 1-32-4 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606

* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです。

URL <http://j-fine.jp/> E-mail : finekouhou@j-fine.jp

NPO 法人 Fine これまでの活動実績（抜粋）

◎日本初！eラーニングによる「不妊ピア・カウンセリング養成講座」開講！

日本で初めて、不妊に特化した不妊ピア・カウンセラーを養成。2005年より七期連続で開講。

2012年より「eラーニング形式」に切り替え、全国どこからでも受講が可能に。

※参考：<http://j-fine.jp/e-pia/index.html>

◎『Fine 祭り』を4年度連続で開催

2008年11月2日『Fine 祭り 2008 ひとりじゃないよ！不妊』開催(来場者約500名)

2009年11月3日『Fine 祭り 2009 そこが知りたい！不妊』開催(来場者約550名)

2011年1月～3月『Fine 祭り 全国おしゃべり会 special』開催(名古屋・大阪・東京/参加者約150名)

2011年11月3日『Fine 祭り 2011 ひとりじゃないよ！不妊』開催(来場者約600名)

※参考：http://j-fine.jp/activity/event/fine_matsuri.html

日本初！不妊当事者団体として国会請願を実施！

不妊当事者団体として初めて、不妊患者の経済的負担の軽減を求めて国会請願を実施。2007年に第1回目、2009年に第2回目、2010年に第3回目、2011年5月の第4回目は請願して初めて衆議院で採択、内閣に送付されました。

2012年5月、26名の国会議員にご協力いただき、第5回目の国会請願をしました。

現在、第6回目の国会請願に向け署名開始！

※参考：<http://j-fine.jp/activity/act/message.html>

◎不妊に関するさまざまな調査を実施

2010年「不妊治療の経済的負担に関するアンケート」を実施(回答者数/1,111名)

2012年「どうする？教えて！病院選びのポイントアンケート」実施(回答者数/560名)。結果は学会や講演会等で発表予定。

※参考：<http://j-fine.jp/activity/enquate/index.html>

◎各種要望書の提出

厚生労働省に「新薬認可の要望書」「保険適用の効能追加の要望書」「自己注射の要望書」等を提出

※参考：<http://j-fine.jp/activity/act/index.html>

◎学会・研究会への参加・発表

2009年 ESHRE(欧州生殖医学会)患者部門にてゲストスピーカーとして発表(オランダ)

2010年 第28回日本受精着床学会総会・学術講演会にてセッション座長、患者招待を実現

2011年「iCSI(国際不妊患者団体連合)Patient Summit2011」に参加(クロアチア)

2011年「家族の＜創生と再統合＞～シンポジウム～生殖医療と里親・養親～」を共催

◎媒体関係(取材や協力)

朝日新聞・日本経済新聞・毎日新聞・読売新聞・東京新聞・北海道新聞・京都新聞 他

NHK「クローズアップ現代」「@ヒューマン」「首都圏ネットワーク」、日本テレビ系ニュース番組「今日の出来事」、日本テレビG+「医療ルネッサンス」他、フジテレビ系ニュース番組「Mr.サンデー」、雑誌「週刊朝日」「赤ちゃんが欲しい」

「AERA」「Doman i」「婦人公論」「週刊現代」他

◎その他

JISART 施設の認定審査に患者代表審査委員として参加(2005年～現在)

～Fine 会員は約1,300名、さらに不妊当事者向け Fine SNS の登録者約1,100名(2012年8月現在)～

NPO 法人 Fine (ファイン) <http://j-fine.jp/>

〒135-0016 東京都江東区東陽1-32-4 TEL 03-5665-1605 FAX 03-5665-1606

* 常駐ではありませんので、できるだけメールにてお問い合わせいただければ幸いです。

～当りリリースについてのお問い合わせ～

E-mail : NPO 法人 Fine 広報窓口 : finekouhou@j-fine.jp